

① 施工前の準備

- コンセントやスイッチのカバー・カーテンレールなど、外せるものは外し、養生・マスキングをして下さい。
- 施工中は扇風機・エアコンなどの空調機器は切り、出来るだけ室内に空気の流れを作らないようにして下さい。
急激な乾燥は、ジョイント部分の目隙の原因となります。

② 下地の調整

施工する下地によって処理の方法が異なります。
下地の材質・状態を良く確認し、適切な処理を行って下さい。

吸水性下地

ベニヤ・コンパネ、コンクリート・モルタル、ケイカル板、繊維壁、その他塗り壁（じゅらく・珪藻土等）

- 水性シーラーで下地処理をします。【道具・材料1】
- 下地が糊を吸い取ってしまう為、前処理を施します。
- シーラーは、ローラーで往復1度塗りを目安にして下さい。
使用するローラーは、毛足が短く細いものを選んで下さい。
（細い方が均等に圧力がかかります）【道具・材料2】

※注意

塗りすぎないように注意してください。塗りすぎると、かえって
はがれてしまうことがあります。

※注意

ペースト状のものは下地まで吸い込まず、壁紙と一緒に
剥がれてしまうため使用できません。

- アクの出る下地には、アク止め処理をします。
ただし、シーラーは膜状ではないため、下地との間に
わずかな隙間があり、アクが出てくる場合もあります。（右図）
- シーラーは、完全に乾かしてください。（半日～1日）
手で触って確認してください。
- シーラー処理後にパテ処理が必要な場合は、パテにも必ず
合成樹脂剤を混ぜてください。

※詳細な手順については、各
メーカーの施工手順書を参照
して下さい。

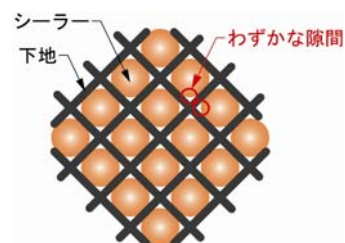
※下記は、参考材料です。
同等の材料をご使用下さい。



道具・材料1：水性シーラー



道具・材料2：ローラー



シーラーを塗布した下地のイメージ図

非吸水性下地

鉄／アルミ／ステンレスなどの金属板、プリント合板
タイル、ガラス・鏡など

- プライマーで下地処理をします。 **道具・材料 3**
- プライマー自体が粘着性のあるものを、原液のまま使用します。
(シールの糊のイメージ)
- ローラーやスポンジ等で、均一に塗布します。 **道具・材料 4**
ローラーは、水性ペンキ用のものを選んで下さい。
シーラー用のものは、ムラができる可能性があります。
(車のワックス掛けのイメージ)

※注意

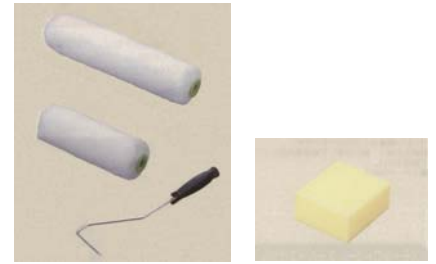
塗りムラは、膨れや変色の原因になります。

※注意

下地表面の汚れを落として下さい。
下地が金属板の場合は、必ず防錆処理をして下さい。
油汚れやプライマー・糊の水分で錆が発生します。



道具・材料 3：プライマー



道具・材料 4：ローラー・スポンジ

塗装下地

水性ペンキ、油性ペンキ、ジプトーン

- 合成樹脂系接着剤で下地処理をします。 **道具・材料 5**
- 合成樹脂系接着剤塗布前に、下地の状態を確認して下さい。
塗膜面にクラックが入っている場合や浮いている場合は、
サンダーやコテで全て落として下さい。 **道具・材料 6**
- 合成樹脂系接着剤は原液のまま使用します。
塗りにくい場合は、水（最大 10%まで）で希釈して下さい。
- ローラーや刷毛等で、均一に塗布します。 **道具・材料 7**

※注意

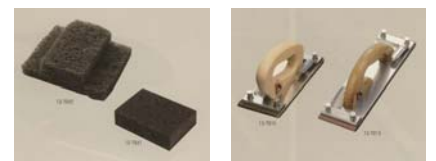
油性ペンキの場合は、オイルステインに注意して下さい。
ペンキ塗装後の期間が短いと可塑剤や色が染み出し、壁紙が
変色する場合があります。

※注意

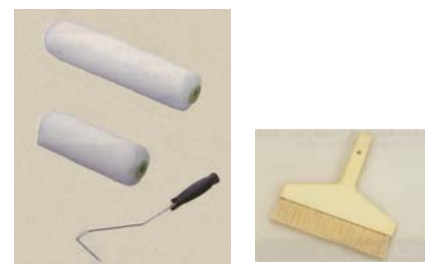
下地表面の汚れを落として下さい。
油汚れには特に注意して下さい。



道具・材料 5：合成樹脂系接着剤



道具・材料 6：サンダー

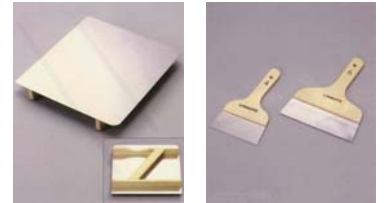


道具・材料 7：ローラー・刷毛

③ パテ処理

下地の凹凸部分やビス頭／ビス穴、ボードのジョイント部分等にパテ処理を施し、平滑にします。**道具・材料 8**

- シーラーや合成樹脂系接着剤で下地調整をした場合は、必ずパテにも合成樹脂剤を混ぜて下さい。**道具・材料 5**



道具・材料 8：パテ・パテ板・パテペラ

- パテは一般的に 120 分／60 分程度で硬化します。短時間で硬めたい場合は、硬化剤を混ぜて下さい。**道具・材料 9**
- パテは凹み部分に対し横方向へ多めに盛り、縦方向にかき取ります。



道具・材料 5：合成樹脂系接着剤

- パテ処理後、必要に応じて仕上げ用パテやサンドペーパー掛けを行って下さい。



道具・材料 9：硬化剤

④ 糊の配合

- 糊は、濃い目のものを使用して下さい。
糊：水 = 1 : 0.5~0.8 が目安です。
- 糊の塗布量は、150~180g/m²が目安です。

⑤ クロス貼り 割付け～糊付け

- クロスのジョイント部が、下地ボードのジョイント部やパテ処理部分と重ならないように割付けして下さい。

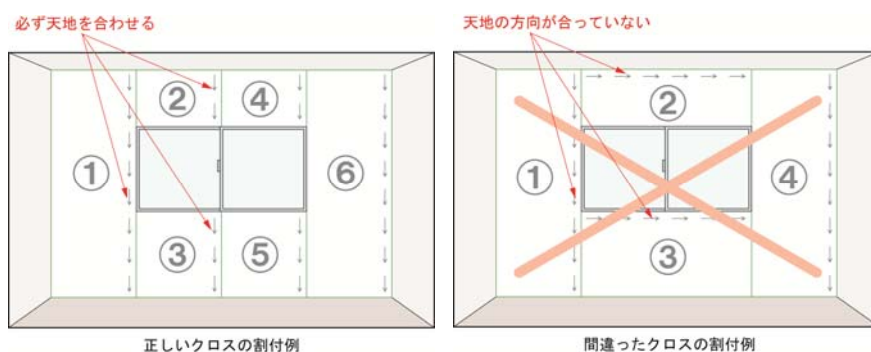
※注意

ボードのジョイント部やパテ処理部分は、接着不良等で剥がれ・目隙の原因となる場合があります。

※注意

天地は必ず合わせてください。(下図)

天地が合っていないと、光の当たり方により色が違って見える場合があります。



- 突き付け施工のスリットは有効幅 92cm を基本にカットして下さい。
- 入隅部は、廻さずに縁を切って納めて下さい。
気持ち長めにカットして押えるときれいに納まります。
- クロス表面に糊が付かないようジョイントテープを使用して下さい。[道具・材料 10](#)



[道具・材料 10](#) : ジョイントテープ

- オープンタイムは、10～20分が目安です。
冬場は、製品がやわらかくなる程度まで糊を十分に熟まして(馴染ませて)下さい。(20～30分)
- 糊の付け溜めはしないで下さい。

※注意

エアピュアレは透湿性がある為、乾燥が早くアイハギ(くっつき)が発生する場合があります。

オープンタイム以上は置かないよう注意して下さい。

- 糊付け後は、折り皺が付かないように大きくふわっとたたんで湾曲部に荷重がかからないよう注意して下さい。
また、重ね置きもしないで下さい。



⑥ クロス貼り 貼り付け～仕上げ

- 切りしろ約5cm取り、手でなで付けながら真っ直ぐに貼ります。次に、なで刷毛を使って中の空気を抜いていきます。**道具・材料 11**



道具・材料 11 : なで刷毛

※注意

なで刷毛は、縦方向に動かして下さい。
横方向になで付けてクロスが伸びてしまうと、乾燥後にジョイント部の目隙の原因となります。

- 空気が抜けたら、角ベラ（竹ベラ）で入隅を押さえしっかりとくせを付けます。**道具・材料 12**



道具・材料 12 : 竹ベラ・押えベラ

- 地ベラをガイドにして、スライドさせながら余分なクロスをカットします。**道具・材料 13**



道具・材料 13 : 地ベラ

- 真っ直ぐにカットする為、一度動かしたカッターは最後まで離さないようにして下さい。地ベラを先にスライドさせてからカッターを動かすのがコツです。

※注意

カッターの刃は、常に鋭利な状態でお使い下さい。

- 次のクロスを貼ります。貼り合せは、耳と耳で追って施工して下さい。下地に傷を付けない『突き付け』施工が基本です。



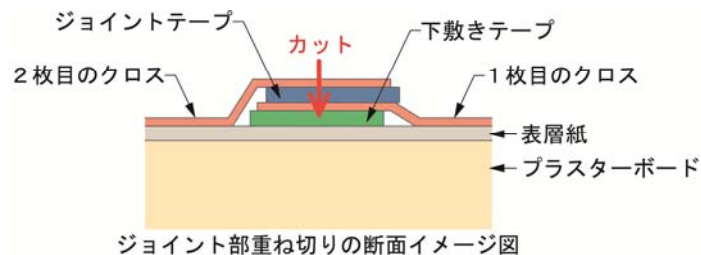
※注意

重ね切りの場合は、下敷き・下敷きテープを必ずご使用の上、下地ボードの表層紙を切り込まないように十分に注意して下さい。**道具・材料 14**

下地ボードの表層紙を切り込むと、はがれ・目隙の原因となります。



道具・材料 14 : 下敷きテープ



※注意

極端に横方向へ引っ張りながらのジョイントは、乾燥後に目隙の原因となります。

- 1枚目と同様、空気を抜き入隅の余分なクロスをカットします。重ね切りの場合は、ジョイント部に地ベラをあてスライドさせながらカットします。この時も、カッターの刃は離さないよう注意して下さい。



- カットが終わったら、下敷きテープ・ジョイントテープを取り除きます。
- **目隙を防ぐには、ジョイント補強テープや捨て糊が有効です。**

道具・材料 15



道具・材料 15 : ジョイント補強テープ

- ジョイントローラーで丁寧に押さえて下さい。 **道具・材料 16**

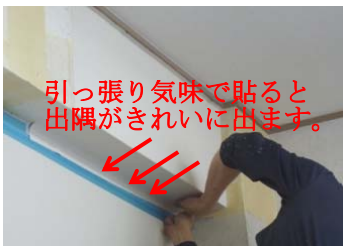


道具・材料 16 : ジョイントローラー

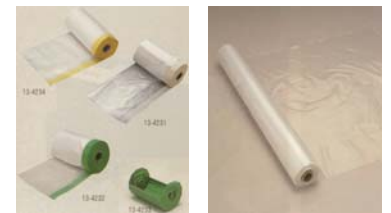
- 梁の施工前は、糊がクロスに付かないようマスキングテープで養生して下さい。また、クロスは予めカットしておくのと貼りやすいです。**道具・材料17**



道具・材料17: マスキングテープ

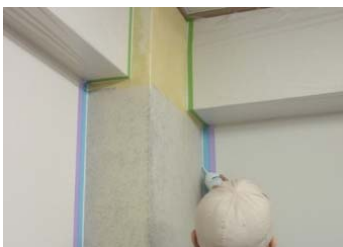


- 柱の施工前は、糊がクロスに付かないよう養生シートやマスキングテープで養生して下さい。**道具・材料18**



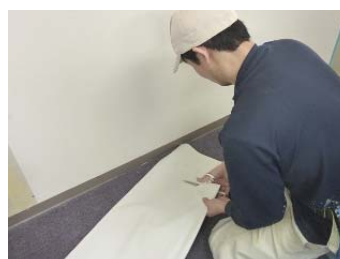
道具・材料18: 養生シート

- 必要に応じて、入隅部にジョイントコークを施します。**道具・材料19**



道具・材料19: ジョイントコーク
※艶けしタイプが適しています

- 柱の寸法を測り、適度なサイズにはさみでカットします。



- 手でなで付け、切りしろを残して余分な部分は先にハサミでカットして下さい。



- なで刷毛で空気を抜き、押えベラ（竹ベラ）で入隅を押さえ地ベラを使ってカットして下さい。



- クロスに糊が付いた場合は、すぐにかたく絞ったタオルやスポンジ等でやさしく叩くようにして拭き取って下さい。

※注意

強くこすらないで下さい。表面破損の原因となります。
シミの原因となりますので、水拭きは厳禁です。

※注意

きれいに拭き取れていない場合、変色の原因となりますので、
必ずきれいに拭き取ってください。

目隙が発生した場合はエアピュアレ専用の補修液をご用意しております。別途お問い合わせ下さい。（有償）